

第1章 研究に先立って

本稿では、研究に先立っていくつか言葉の定義をし、全体の構成を示す。

1、「統合」の定義

主として本研究では、鉄道と国民化との関係性を取り扱っていくことになるが、この国民化といった言葉をここでは「統合」として定義していく。

「統合」とは辞書によると「二つ以上のものを一つに統合させること。統一。」とされている(『広辞苑 第六版』岩波書店)。辞書の定義から国民に関して考えると、それまで国民でなかった人々を、「〇〇人」などの共通にアイデンティティの下、一つに統一していくことと考えることができる。

「統合」に関してより深く考えるため、「Nation」という言葉を手がかりとしてみる。津田 2016 では、「Nation」という言葉には二つの側面が有り、それは(1)文化や言語などを共有するエスニック集団の成員としての側面と、(2)主権国家の成員という側面であると指摘している¹。成員の帰属先がエスニック集団か主権国家かといったところで二つの側面を指摘できるということであるが、どちらの側面を強調するかによって「統合」の意味合いは大きく変わってくることとなる。後述の先行研究の先取りとなってしまうが、日本における鉄道と国民化との関係性を考えていくと、近代国民国家を成立させ、他の列強諸国と同等な主権国家であることを示そうとしていたことから(2)の性質を読み取れ、また台湾や朝鮮などの植民地の人々を「日本」というエスニック集団の成員とさせようとしていることから(1)の面も読み取れることから、(1)(2)どちらの側面も有していることに気が付くことになる。

ナショナリズムについて論じたものとして、現代でも数多く引用されているのがアンダーソンによる「想像の共同体」論である²。多くの議論を呼

¹ 津田正太郎(2016)『ナショナリズムとマスメディア—連帯と排除の相克』勁草書房 pp.15-18

² B.アンダーソン、白石さや、白石隆訳(1997)『定本想像の共同体—ナショナリズム

んだものであるが、メディアとの関係について、民衆を共同体の一員として想像させるための共通認識をもたらすものと指摘されている(大石 2012:14-17)³。「一日だけのベストセラー」とアンダーソンが例えた新聞については⁴、ほぼ同時刻に同じものを消費するという共通の経験を民衆に与え、「対面的な接触を遥かに越える規模の共同体に対する想像力を喚起するうえで重要な役割を果たした」⁵と指摘している。

以上 Nation という言葉とアンダーソンの「想像の共同体」論から考えて、「統合」を「自らを、文化・言語などを共有する一つの国民共同体の成員として規定すること。もしくは規定させられること」と定義する。

2. 本研究の構成

本研究の構成としては、まず第1部では「統合」と交通・鉄道に関する先行研究を紹介し、その概観をした上で「統合」に関するメディア(新聞)が報じる鉄道にどのような関係があるのかという問題を設定する。第2部では、新聞記事の抽出方法と分析方法を確認した後、1888年から1945年までを四期に分割し分析を行っていく。またコラムとして、新聞社による鉄道を題材とした公募歌と、鉄道とはやや離れてしまうが戦後の東名高速道路開通がどのように報じられていたのかを分析したものを設けた。第2部を受け第3部では、分析を大まかにまとめた上で、最後に設定した問題に対する考察を行う。

の起源と流行』NTT出版

³ 大石裕(2012)『戦後日本のメディアと市民意識—『大きな物語』の変容』ミネルヴァ書房

⁴ B.アンダーソン 前掲書 p.61

⁵ 津田 前掲書 p.8